

## 第1節 高校生の学習行動と学力

### 1. 学校での学習の様子と学力

#### ①教科の好き嫌い・授業の理解度と学力

教科の好き嫌いとは学力は相関しており、その教科が好きな生徒ほど学力が高い。また、生徒の主観的な授業の理解度は、客観的な学力階層を反映している。

Q

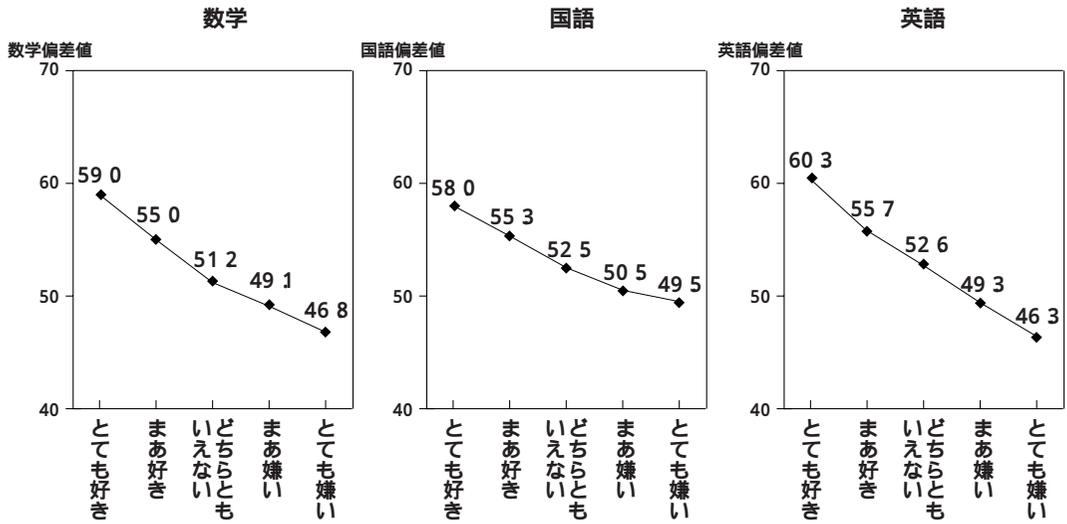
あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。  
学校の授業をどのくらい理解していますか（わかっていますか）。

数学、国語、英語の学力偏差値を、それぞれの教科についての好き嫌いの程度別に示した(図2-1-1)。どの教科についても、「好き」とする生徒ほど学力偏差値が高い傾向がみられる。その教科が「とても好き」という生徒と「とても嫌い」という生徒の学力差は、10ポイント程度ある。国語に比べて、数学、

英語で差が大きい。

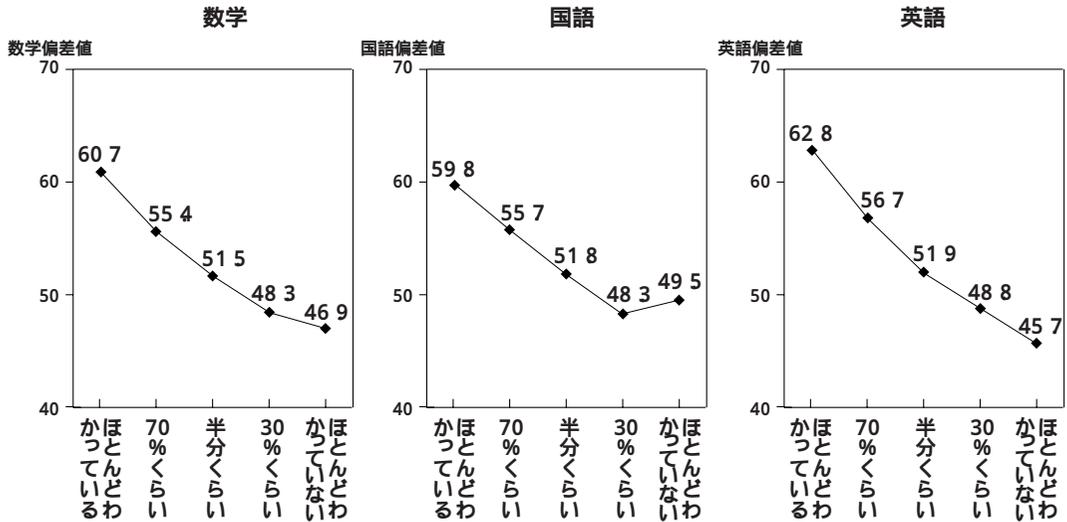
同様に、それぞれの教科についての授業の理解度と学力偏差値との関連をみると(図2-1-2)、生徒たちの主観的な授業の理解度は、学力偏差値を反映したものであることがわかる。理解度と学力の相関は、英語でもっとも高く、国語でもっとも低い。

図2-1-1 教科の学力偏差値平均点（教科の好き嫌い別）



注) サンプル数は数学受験者2910人、国語受験者3085人、英語受験者3092人。

図2-1-2 教科の学力偏差値平均点（教科の授業理解度別）



注) サンプル数は数学受験者2910人、国語受験者3085人、英語受験者3092人。

## ②文理のコースと学力

学力は理系優位である。「理系」に比べて「文系」の希望者に、学力下位層が多い。



あなたのことについてうかがいます。あなたは文理どちらのコースですか。

文理のコース別に学力階層の構成をみると、図2-1-3である。「理系」に占める「学力上位階層（最上位）」の比率は31.8%であるのに対して、「文系」のそれは20.9%である。また「文系」に占める「学力下位階層（最下位）」の比率は27.3%であるのに対して、「理系」のそれは14.7%にすぎない。「理系」に学力上位層が相対的に多く含まれており、

この意味で文系・理系コースは同レベルの学力水準とはなっていない。

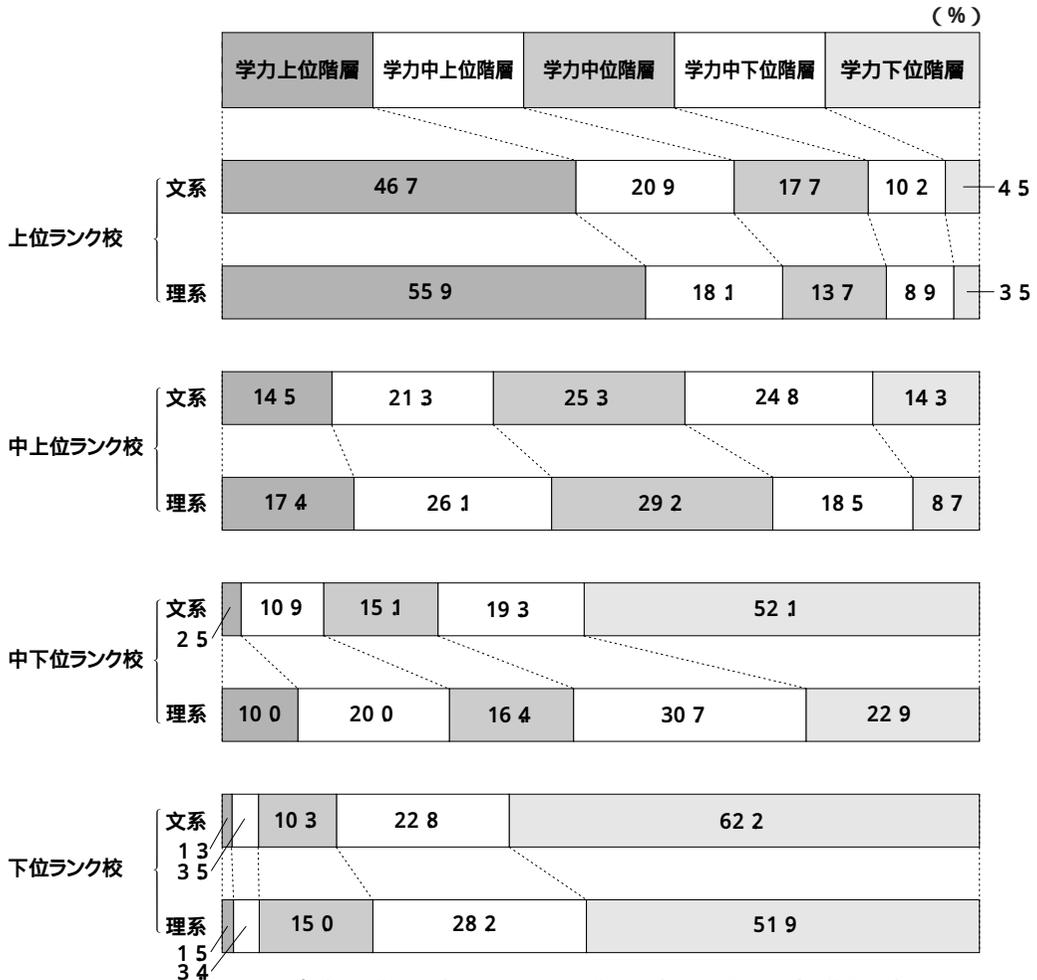
学力における理系優位の傾向は、学校ランクによらず確認できる（図2-1-4）。学校ランクが下がるにつれて全体として学力は下位にシフトするが、どの学校ランクでも文系のほうがより下位の学力階層の構成が厚い分布を示している。

図2-1-3 3教科合計の学力階層（文理のコース別）

|            | （％）    |         |        |         |        |
|------------|--------|---------|--------|---------|--------|
|            | 学力上位階層 | 学力中上位階層 | 学力中位階層 | 学力中下位階層 | 学力下位階層 |
| 文系         | 20.9   | 15.6    | 17.8   | 18.4    | 27.3   |
| 理系         | 31.8   | 18.2    | 18.5   | 16.9    | 14.7   |
| どちらでもない・未定 | 17.6   | 15.1    | 22.7   | 22.7    | 21.8   |

注）サンプル数は文系1458人、理系1300人、どちらでもない・未定119人。

図2-1-4 3教科合計の学力階層（学校ランク別×文理のコース別）



注) サンプル数は上位ランク校・文系508人、上位ランク校・理系598人、中上位ランク校・文系400人、中上位ランク校・理系356人、中下位ランク校・文系238人、中下位ランク校・理系140人、下位ランク校・文系312人、下位ランク校・理系206人。

### ③授業の受け方と学力

より積極的な受講態度や授業への集中が、高い学力と結びついている。

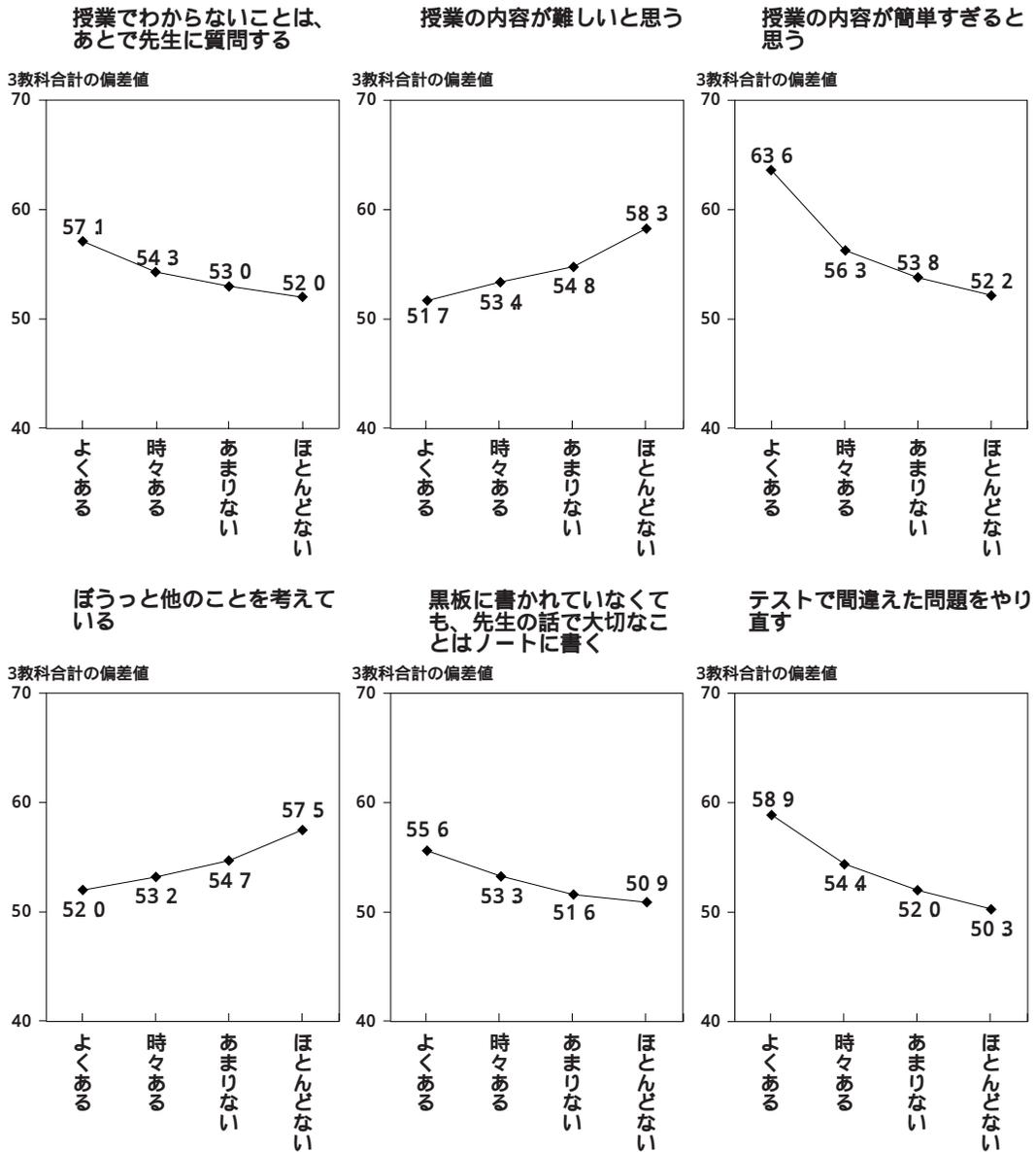


あなたの授業中の様子についてうかがいます。

学力は、授業の受け方とどのような関係にあるのだろうか。図2 - 1 - 5は、3教科合計の学力偏差値平均点を、授業の受け方別に示したものである（差がみられた項目のみ示した）。「授業の内容が難しいと思う」生徒ほど学力が低く、逆に「授業の内容が簡単すぎると思う」と答えた生徒ほど学力が高い。また、「授業でわからないことは、あとで先生

に質問する」「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」ことが多い生徒ほど高い学力を示し、「ぼうっと他のことを考えている」ことが多い生徒ほど学力が低い。予想どおり、より積極的な受講態度や、授業への集中が、高い学力と結びついている。

図2-1-5 3教科合計の学力偏差値平均点（授業の受け方別）



注) サンプル数は3教科受験者2890人。

## 2 . 家での学習の様子と学力

### ①家庭学習の頻度・家での学習時間と学力

家での勉強を「ほとんど毎日する」生徒の47.1%が「学力上位階層」で、「家ではほとんど勉強しない」生徒のうち43.1%は「学力下位階層」である。1日あたりの平均学習時間(平日)は、「学力上位階層」から順に105.3分、85.8分、77.7分、69.3分、44.5分と減少する。同一の学力階層の生徒であっても、上位ランクの高校のほうが学習時間が長くなる。

#### Q

家での勉強についてうかがいます(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)。あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。

あなたはふだん(月曜日～金曜日)学校での授業以外に1日に何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

ふだん(月曜日～金曜日)テレビを1日に何時間くらい見ますか。

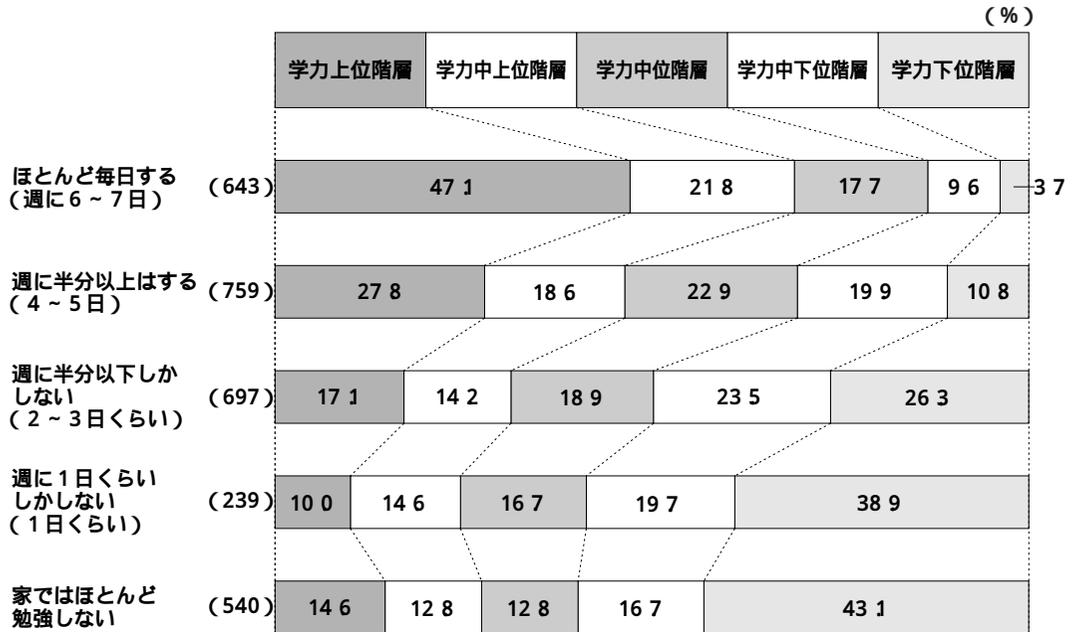
まず、家での学習の頻度と学力の関係をみてみよう(図2-1-6)。家での学習習慣は、学力と強くかかわっている。家での勉強を「ほとんど毎日する」生徒の47.1%が、「学力上位階層」である。ほとんど毎日勉強しているにもかかわらず「学力中下位階層」以下の者は、1割強にすぎない。逆に、「家ではほとんど勉強しない」生徒のうち43.1%は、「学力下位階層」である。ただし、「家ではほとんど勉強しない」生徒でも、その14.6%は「学力上位階層」、12.8%は「学力中上位階層」である。

1日あたりの平均学習時間を概算してみると(図2-1-7)「学力上位階層」では105.3分(平日学習時間)であり、下位になるにしたがって、85.8分(中上位階層)、77.7分(中位階層)、69.3分(中下位階層)、44.5分(下位階層)と減少する。学習時間とは逆に、テレビ視聴時間は、学力下位層ほど顕著に増加

する。「学力下位階層」のテレビ視聴時間は、学習時間の3倍弱である。

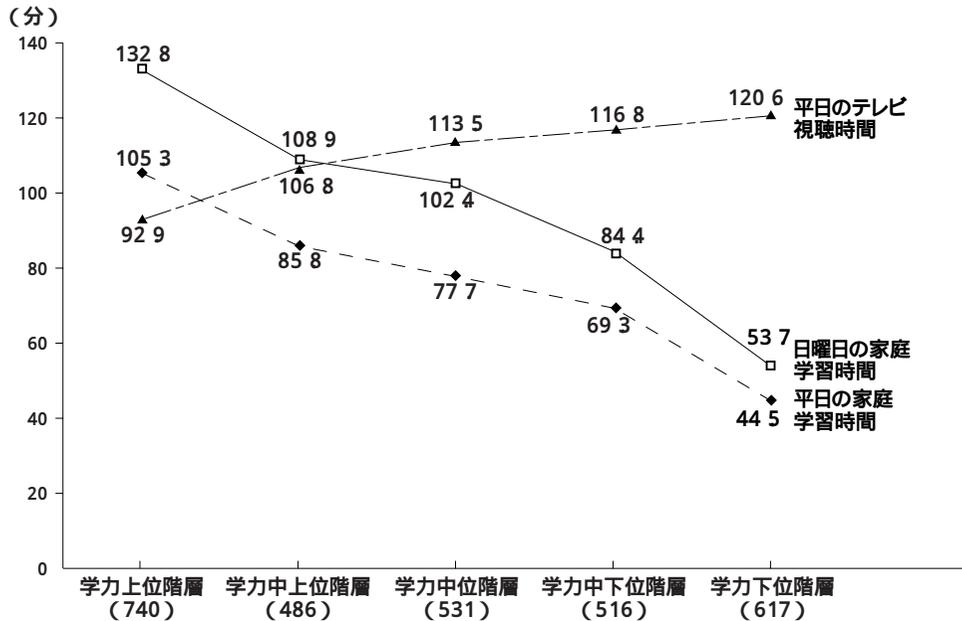
平日の学習時間と学力階層の関連をさらに学校ランク別にみると(図2-1-8)興味深い傾向が現れている。同一の学力階層の生徒に着目すると、中上位ランク以下の高校の場合、学習時間の差はほとんどないか、あるいはあってもわずかである。しかしながら、上位ランク校の生徒は、同じ学力階層の他のランクの学校の生徒に比べて、学習時間が明らかに長くなっている。たとえば、上位ランク校の生徒で「学力上位階層」の平均学習時間は112.8分、同じ学力ではあっても中上位ランク校、中下位ランク校の生徒は、それぞれ75.0分、80.0分である。このことは、上位ランクの高校には、ある種のアカデミックな風土(校風)があって、それが学習時間を長くする効果を持っていることを物語る。

図2-1-6 3教科合計の学力階層（家での学習頻度別）



注) ( )内はサンプル数。

図2-1-7 家での学習時間、テレビ視聴時間の平均（3教科合計の学力階層別）

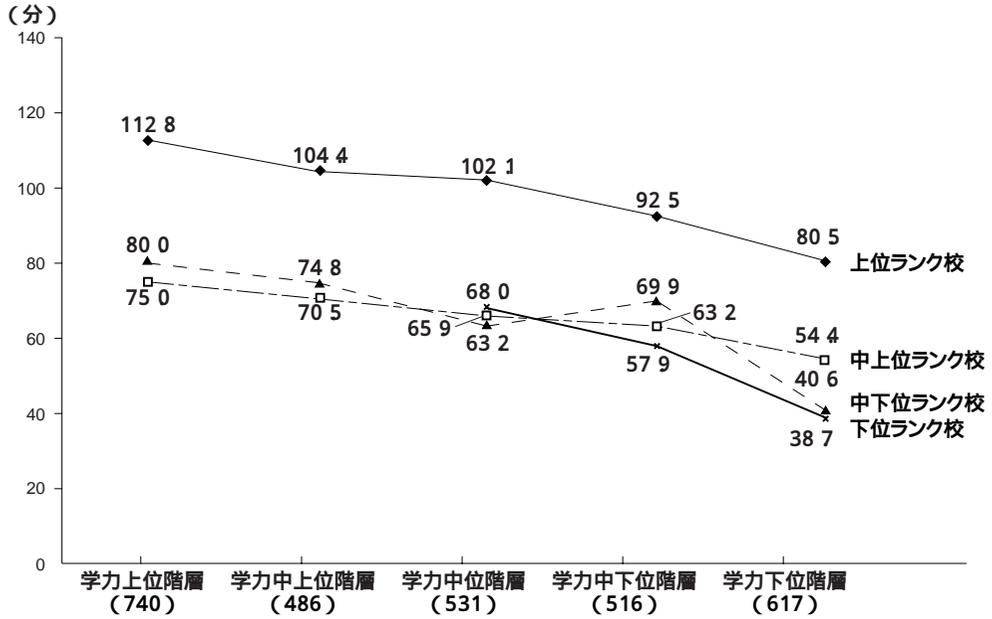


注1) 数値の単位は分。

注2) 「ほとんどしない(見ない)」を0分、「およそ30分」を30分、「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」はそれぞれの時間、「それ以上」を4時間として平均時間を算出した。

注3) ( )内はサンプル数。

図2-1-8 平日の家庭学習時間の平均（学校ランク別×3教科合計の学力階層別）



注1) 数値の単位は分。

注2) 「ほとんどしない」を0分、「およそ30分」を30分、「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」はそれぞれの時間、「それ以上」を4時間として平均時間を算出した。

注3) 母数が20人に満たない箇所の平均学習時間は省略した。

注4) ( )内はサンプル数。

## ②家での勉強内容と学力

学力上位層ほど、家で「学校の授業の予習」を行う生徒が多く、また「塾や予備校の授業の予習・復習」「書店などで売っている問題集・参考書」を使った勉強をする生徒が多い。

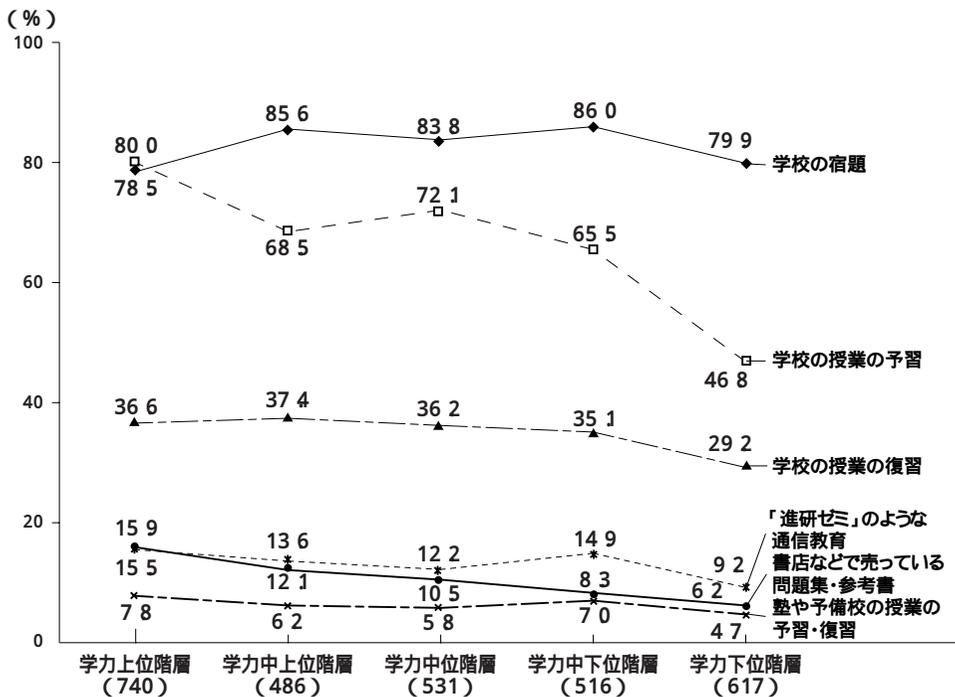


家では主にどんな勉強をしていますか。

家での勉強内容と学力はどう関係しているのか(図2-1-9)。第一に、家で「学校の授業の復習」をする生徒は、「学力下位階層」で少ないことを別として)学力階層によらずほぼ4割弱の比率を示すが、「予習」をする生徒は上位層で顕著に多い(「学力上位階層」から順に、80.0% 68.5% 72.1% 65.5% 46.8%)。第二に、「塾や予備校の授業の予習・復習」と「書店などで売っている

問題集・参考書」は絶対数が少ないものの、学力上位層ほど多い。第三に、「学力下位階層」は、いずれの項目についても概して低い数値を示す。これは、「学力下位階層」は、そもそも家での学習頻度が小さく、また学習時間も短いことの現れだろう。「『進研ゼミ』のような通信教育」の勉強も、「学力下位階層」のみ低い数値を示している。

図2-1-9 家での勉強内容(3教科合計の学力階層別)



注1) 複数回答。

注2) ( )内はサンプル数。

### ③家での学習の様子と学力

「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」ことや「予習をしてから授業を受ける」ことは高い学力と関係している。

Q

家での勉強についてうかがいます。

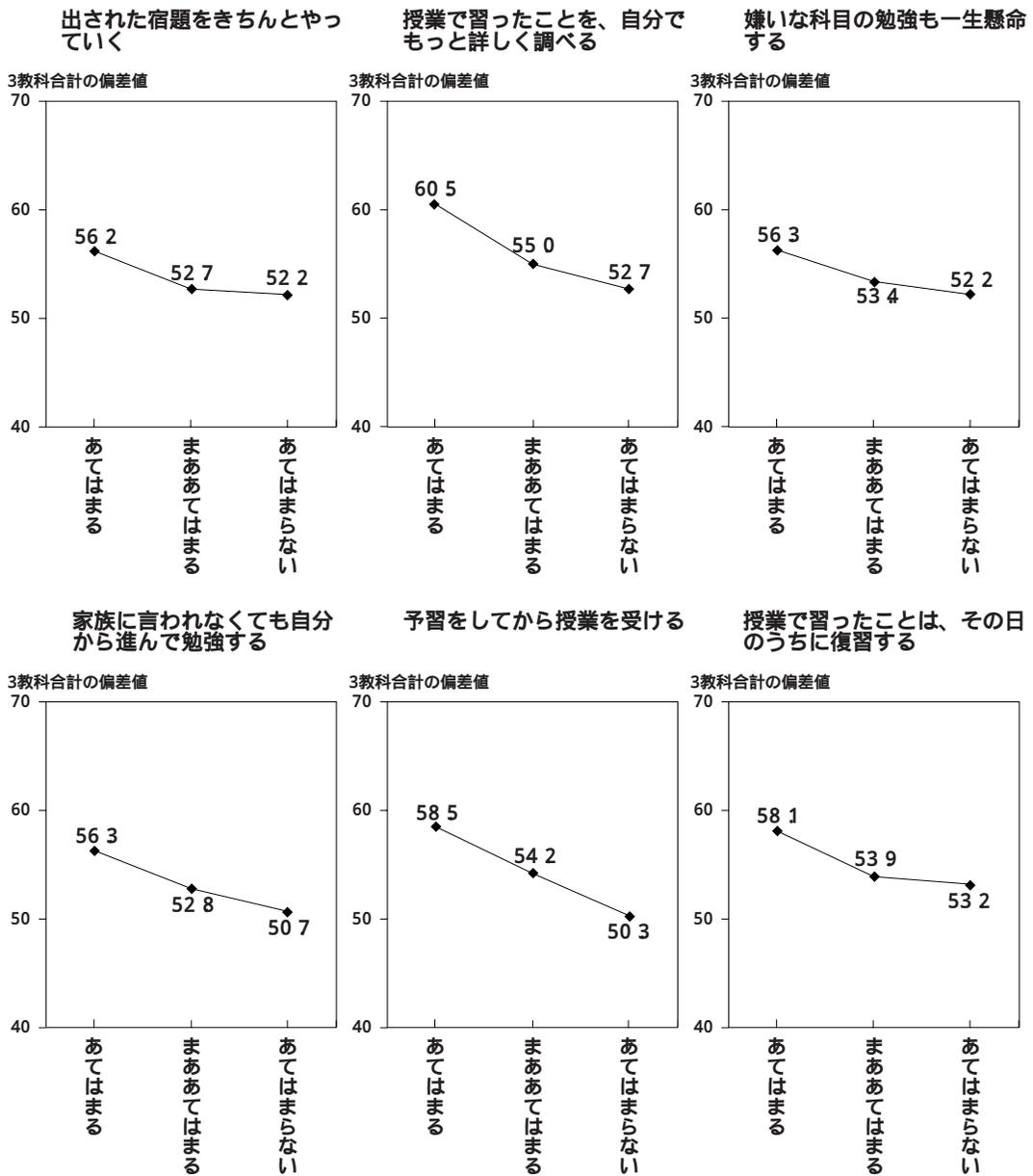
学力と関連のあった、家での学習の様子を示したのが、図2 - 1 - 10である。

「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」生徒ほど、高い学力を示す。また、「予習をしてから授業を受ける」ことが多いほど、学力が高い。これらは、先に述べた、より積極的な受講態度や予習型の家庭学習が

高い学力と結びついていたことと符合する。

上記2項目に比べると学力との関連が弱いものの、「出された宿題をきちんとやっていく」「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」といったことをよくする生徒ほど、学力が高い傾向がみられる。

図2-1-10 3教科合計の学力偏差値平均点（家での学習の様子別）



注) サンプル数は3教科受験者2890人。

### 3 . 学校外の学習機会と学力

#### ① 学習塾・予備校の利用と学力

塾・予備校の利用率は、「学力上位階層」29.7%、「中上位階層」24.9%、「中位階層」19.2%、「中下位階層」22.1%、「下位階層」12.3%と、おおむね学力上位層ほど高い。通っている塾・予備校のタイプは、学力上位層は「進学塾」に、下位層は「補習塾」に分化している。

Q

あなたは今、放課後や日曜日に、学習塾や予備校へ行っていませんか(そろばん、習字などの塾は除きます。「公文」のような自習教室は含めません)。

[ 行っている人にうかがいます ]

あなたの行っているのは、どんな学習塾(予備校)ですか。

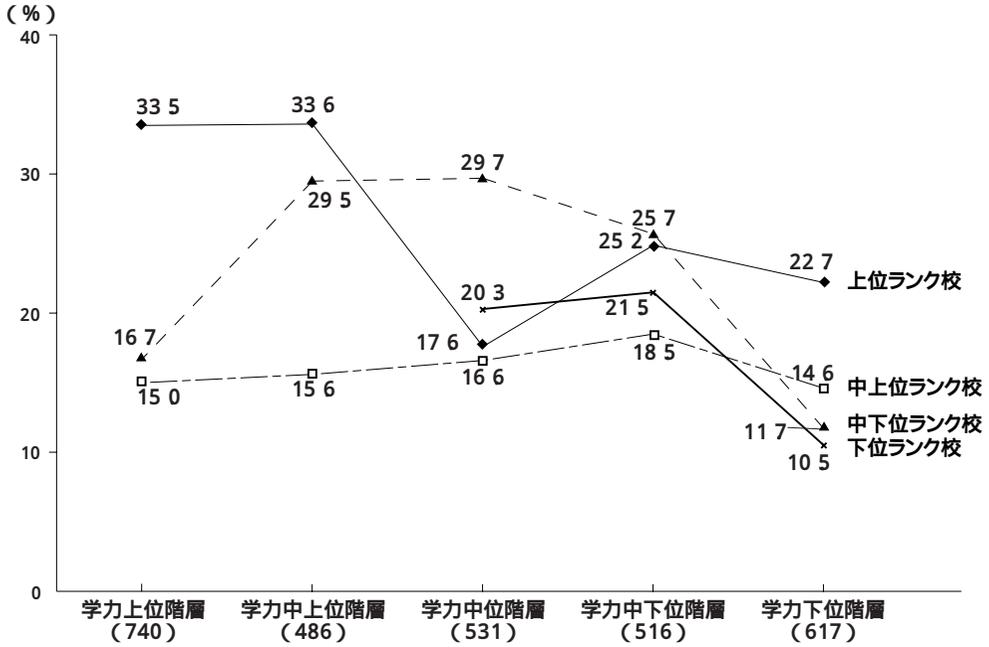
学力階層別に、塾・予備校の利用率をみると、「学力上位階層」29.7%、「中上位階層」24.9%、「中位階層」19.2%、「中下位階層」22.1%、「下位階層」12.3%である。「中下位階層」の数値がやや外れているものの、おおむね学力上位層ほど通塾率が高い傾向がある。

これを学校ランク別にみると、やや複雑な結果を示す(図2-1-11)。上位ランク校では、「学力中位階層」で通塾率が低い。中上位ランク校では学力階層による差はほとんどない。中下位ランク校では、上位ランク校とは逆に、「学力上位階層」と「下位階層」

で通塾率が低い。下位ランク校では「学力下位階層」で低い数値を示している。

通っている塾や予備校のタイプは、学力によって対照的な傾向を示す(図2-1-12)。「大学や短期大学を受験するための進学塾」は、「学力上位階層」55.9%であるのに対し、「学力下位階層」31.6%である。逆に「学校の勉強がわかるようになるための補習塾」は、「学力下位階層」56.6%に対し、「上位階層」は32.3%である。学力上位層は「進学塾」に、下位層は「補習塾」に分化している。

図2-1-11 学習塾（予備校）の利用（学校ランク別×3教科合計の学力階層別）



注1) 母数が20人に満たない箇所の数値は省略した。  
 注2) ( )内はサンプル数。

図2-1-12 学習塾（予備校）のタイプ（3教科合計の学力階層別）

| 学力階層          | タイプ (%)              |                    |           |
|---------------|----------------------|--------------------|-----------|
|               | 学校の勉強がわかるようになるための補習塾 | 大学や短期大学を受験するための進学塾 | その他、無答・不明 |
| 学力上位階層 (220)  | 32.3                 | 55.9               | 11.8      |
| 学力中上位階層 (121) | 38.8                 | 52.9               | 8.3       |
| 学力中位階層 (102)  | 45.1                 | 38.2               | 16.7      |
| 学力中下位階層 (114) | 51.8                 | 34.2               | 14.0      |
| 学力下位階層 (76)   | 56.6                 | 31.6               | 11.8      |

注) ( )内はサンプル数。

## ② 諸学習機会の利用と学力

「通信教育」は、「学力上位階層」から「中下位階層」までは2割強で横並び、「学力下位階層」のみ15.7%と低い。「塾や予備校の夏期講習」は、学力上位層ほど利用率が高い。



あなたは次のようなことをしていますか。

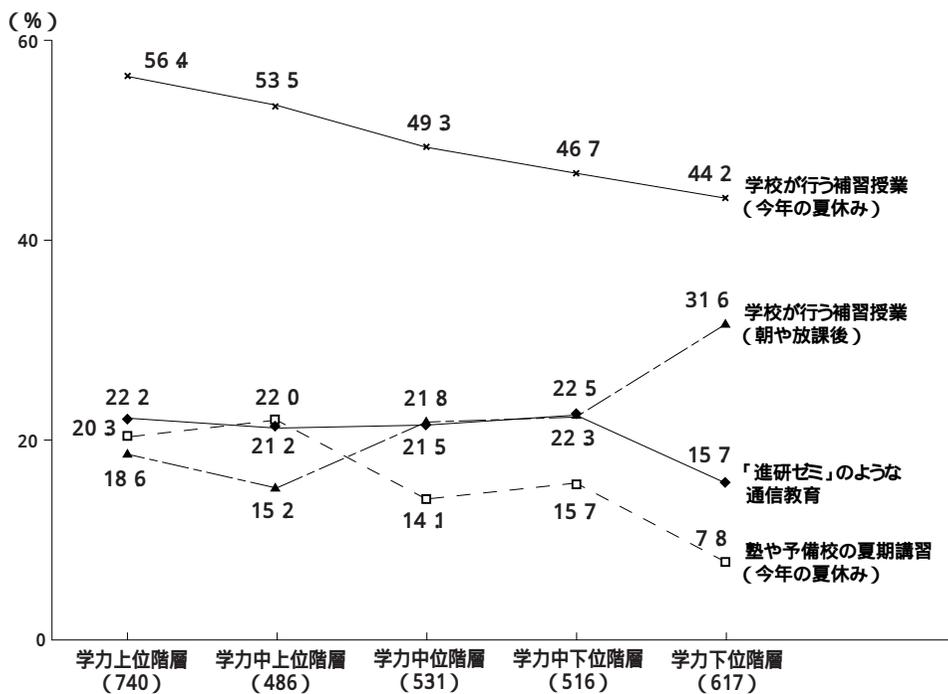
諸学習機会と学力の関連はどうか（図2 - 1 - 13）。

「『進研ゼミ』のような通信教育」は、「学力上位階層」から「中下位階層」までは2割強で横並びだが、「学力下位階層」のみ15.7%と低い値を示す。「塾や予備校の夏期講習」

は、学力上位層ほど利用率が高い。学力階層別の通塾率と一致した傾向が出ている。

「学校が行う補習授業」のうち、「朝や放課後の通常補習」は学力下位層ほど利用率が高く、「夏休みの補習」は逆に上位層ほど利用率が高くなっている。

図2 - 1 - 13 諸学習機会の利用（3教科合計の学力階層別）



注1) 複数回答。

注2) ( )内はサンプル数。

## 4 . 学習の方法と学力

### ①学習の方法と学力

学力上位層ほど、「辞書（英語・国語など）を引く」と、「プリントや問題集で数学の問題練習をする」の頻度が高い。



家では、どんな勉強の仕方をする人が多いですか。

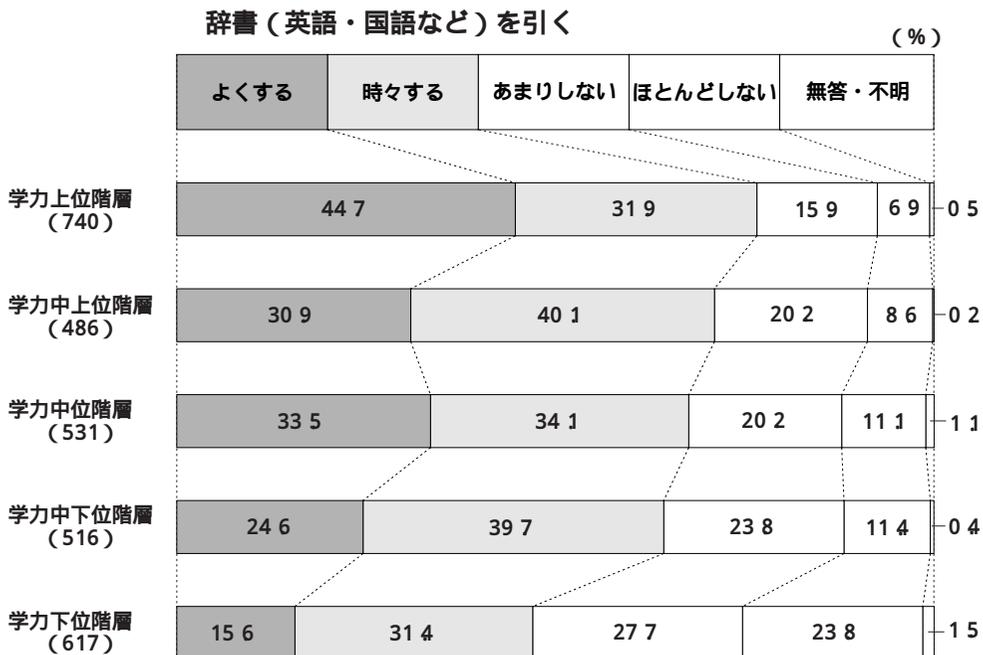
今回の調査では、どんな学習方法をとっているのかについて尋ねているが、学力階層と強い関連がみられたのは、図2-1-14と図2-1-15に示した2項目である。

学力上位層ほど、「辞書（英語・国語など）を引く」頻度が高いことがわかる。たとえば「学力上位階層」では44.7%が辞書を「よく

引く」と答えているのに対して、「学力下位階層」では15.6%にすぎない。

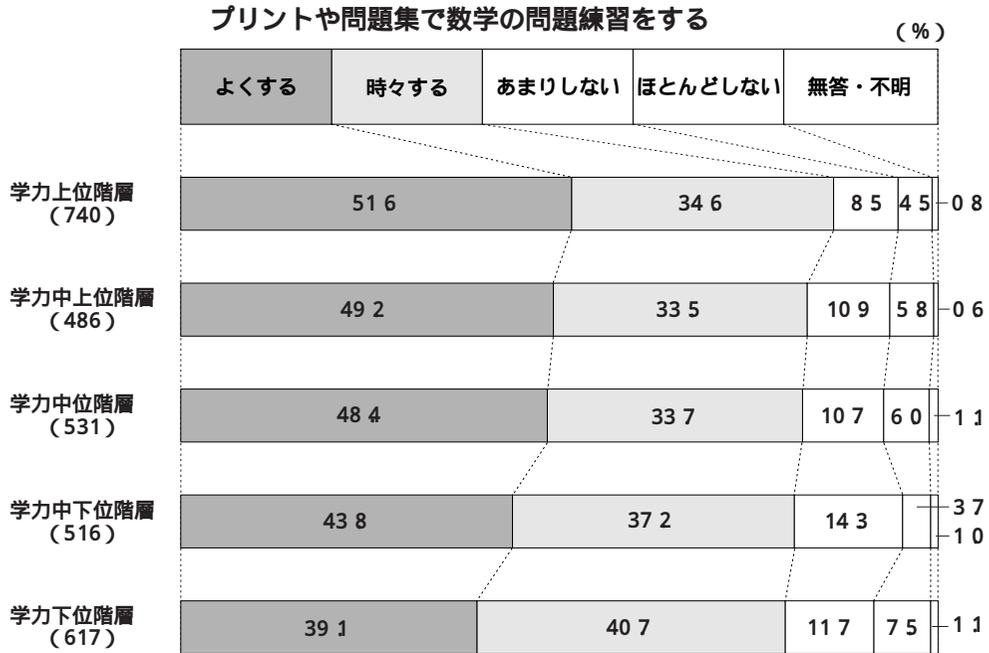
同様に、学力上位層ほど、「プリントや問題集で数学の問題練習」を「よくする」という回答が多い。「学力上位階層」では、「よくする」が51.6%と半数を超えるが、「学力下位階層」では39.1%にとどまっている。

図2-1-14 家での学習方法（3教科合計の学力階層別）



注) ( )内はサンプル数。

図2 - 1 - 15 家での学習方法（3教科合計の学力階層別）



注) ( )内はサンプル数。

## ②学習方法のタイプと学力

学力の上下によって、学習頻度や時間が異なるだけではなく、学習の方法においても質的な相違がある。

Q

あなたの勉強の仕方を分類するとすれば、どんなタイプになると思いますか。どちらかといえば近いほうのタイプに をつけてください。

(1か2のどちらか近いほうの番号に をつけてください)

学習方法のタイプと学力には、大きな関連がある。図2 - 1 - 16は、学力階層によって対照的な差がみられた学習方法のタイプをあげたものである。学力下位層に比べて上位層ほど多い学習方法のタイプは次のようなものである。

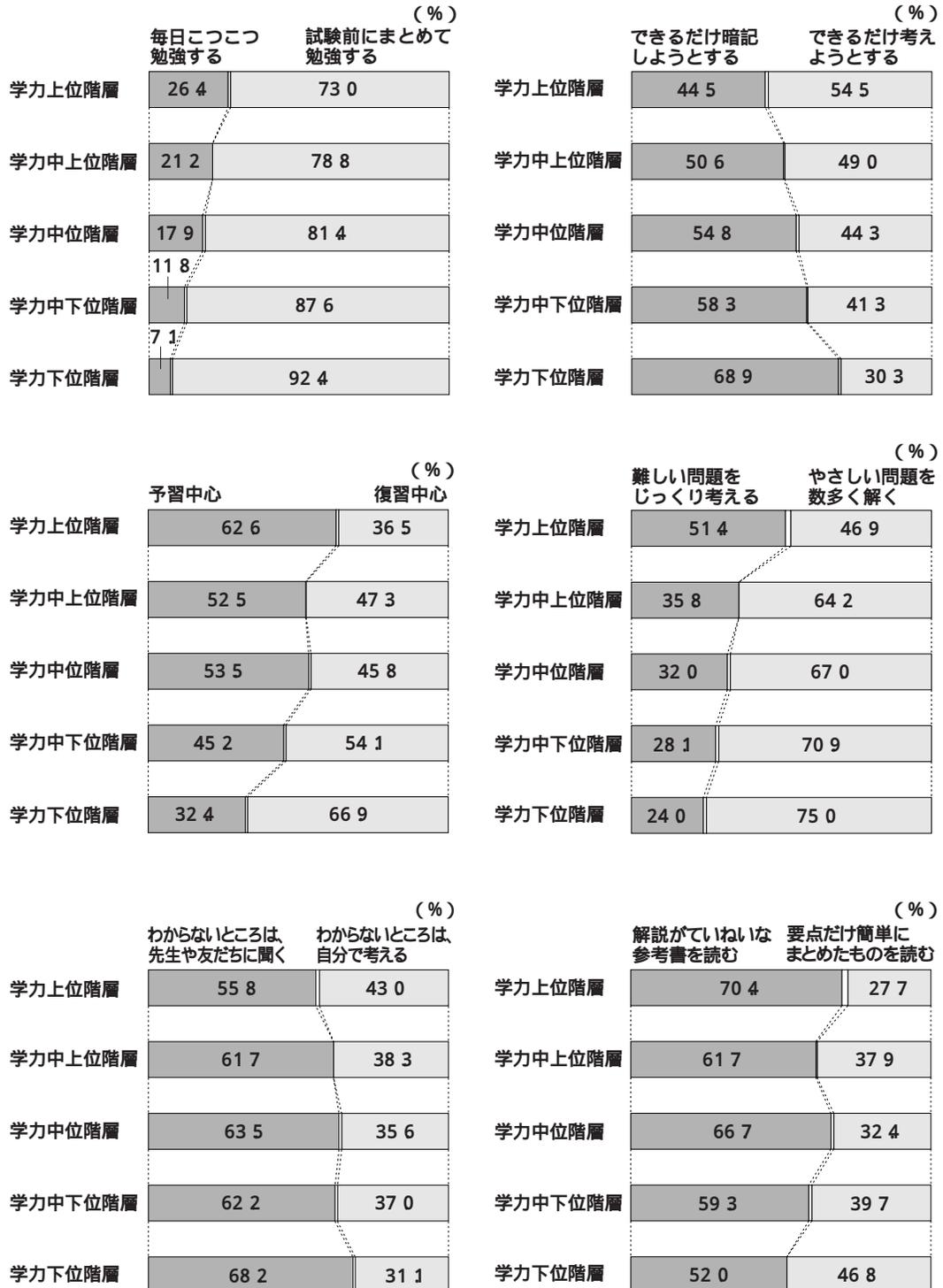
- ・「試験前にまとめて勉強する」よりも「毎日こつこつ勉強する」
- ・「できるだけ暗記しようとする」よりも「できるだけ考えようとする」
- ・「復習中心」よりも「予習中心」
- ・「やさしい問題を数多く解く」よりも「難

しい問題をじっくり考える」

- ・「わからないところは、先生や友だちに聞く」よりも「わからないところは、自分で考える」
- ・「要点だけ簡単にまとめたものを読む」よりも「解説がていねいな参考書を読む」

こうしてみると、学力の上下によって、学習頻度や時間が異なるだけではなく、学習の方法においても質的な相違があることに気づく。

図2 - 1 - 16 学習方法のタイプ(3教科合計の学力階層別)



注1)2つの学習方法のタイプのうち、どちらか近いほうを選択。

注2)項目の間の空白部分は「無答・不明」を示す。

注3)サンプル数は学力上位階層740人、学力中上位階層486人、学力中位階層531人、学力中下位階層516人、学力下位階層617人。